



# 佐野高校 ～ グローバル教育を軸とした探究活動 ～

《 特色 》 佐野高校の探究活動では、郷土の偉人「田中正造」の生き方をモデルとして、「持続可能な社会」の実現を目指し、「公害や災害からの復興」「食料・エネルギー・水」「環境と経済・法律」「まちづくり・コミュニティ」「自然・生命」「人権・教育・文化」の6つの研究領域から地域の課題を発見・設定します。「シンカ」(深化・進化・真価・Thinker)を探究のキーワードとして、継続的な活動を重ねながら解決策を提言し、行動できる「グローバルリーダー」の育成を目指しています。

## 年間予定

### 1年 グローバル基礎 ～地域課題研究～

- 4月 オープニングセレモニー
- 5月 地域リーダーズシンポジウム  
日本語、英語ディベート(～2月)
- 6月 研究領域ごとにグループを構成
- 7月 仮説を立て、研究計画書を作成
- 8月 フィールドワークの日
- 10月～中間発表会→領域別発表会
- 12月 成果発表会
- 1月 グループ研究を個人でまとめ直す。  
2年次の研究の事前調査

### 2年 グローバル応用 ～異文化研究～

- 4月 研究グループとテーマの設定
- 7月～中間発表会→領域別発表会
- 12月 成果発表会
- 1月 課題研究まとめ

### 3年 グローバル発展 ～キャリアパス探究～

- 4月 2年間の取組の整理
- 5月 「学びの計画書」の作成
- 6月～「シンカ宣言」(英文)の作成

## point1



中学校で行った課題研究(シンカゼミ)を土台に、グローバルリーダーを目指すことを意識する。

《 内容 》 基調講話 3年生による活動成果等の発表



## point2

テーマ設定、情報収集、成果発信等の探究の手法を、多様な活動を通して習得する。

《 主な取組の内容 》

- ・地域リーダーズシンポジウム  
6つの研究領域ごとに分かれ、地域で活躍する方の話を聞く。
- ・日本語ディベート、英語ディベート  
論題例「数学のテストで計算機を使うことを許可すべきだ」



## point3



1、2年生の研究成果を発表する。1年生の優れた研究を、海外グローバル研修に行くグループが引き継ぐ。

《 主な発表 》

- ・「レストランメニューの多言語化」  
外国の方の手助けをしようという思いを実現させた。
- ・「外来魚大進化計画～Let's make 魚粉～」  
駆除した外来魚の有効利用法を「魚粉」という解で示した。
- ・「Let's create a bond between children and elderly」  
子どもたちの「生きる力」を育む対策を、分かりやすくまとめた。



## point4



大学等で引き続き追究したい内容を考察する。最後のまとめには、卒業後の進路、生き方に関して、英語で「宣言文」を作成する。

## これまでの主な取組

### ●シンカした探究型学習の実現

教師を伴走者とし、大学等の指導も受けられる協働研究とすることで、卒業後の進路にも繋がる高度な課題設定や研究を実現できた。

### ●研究発表を見せる場・見る場の充実

1年生で、校内発表を4回行う生徒もいるなど、校内発表の機会の充実を図った。助言や激励を得て研究が深まると共に、研究に対する意欲も向上し、発信力や協働する力に長けた生徒が育った。

### ●外部機関との連携

校外の企業、自治体、大学、国際機関等と連携し、様々なフィールドワークを実施した。

## これから目指す取組

### ●「佐高ブランド」の確立

学校の魅力となるように、新たなプログラムを構想し、探究活動を「シンカ」させる。

### ●学校設定科目CTP(Critical Thinking Program)の充実

論理的・批判的な思考力の育成だけでなく、中学校や他教科との連携も強化し、内容を「シンカ」させる。



## 《 担当者の声 》 SGH推進部長 大嶋 浩行

地域に関する課題研究を、グローバルな視点での研究に発展させていくところが本校の探究の特徴です。生徒たちは、課題と向き合い、協働して取り組み、成果を発表していく中で、様々な力が求められる社会で活躍する準備を着実に進めています。また、SGH指定期間(H28～R2)のノウハウが各活動で生かされています。